



Webex アプリ for VDI の管理とトラブルシューティング

- アップグレードの管理 (1 ページ)
- インストール後の VDI 検出の無効化 (5 ページ)
- Webex アプリ VDI フォールバックモードでの高度なビデオ機能の有効化または無効化 (5 ページ)
- VDI プラグイン通知の設定 (7 ページ)
- すべてのデバイスで着信音とアラートの設定が機能しない (7 ページ)
- Webex アプリ での診断 (8 ページ)
- ブラウザ コンテンツ リダイレクション (9 ページ)

アップグレードの管理

仮想デスクトップでの Webex アプリ アップグレード

VDI 環境の場合、Webex アプリ の新しいリリースが 2 か月ごとに公開されます。

<https://www.webex.com/downloads/teams-vdi.html> から最新バージョンおよびサポートされているバージョンを入手できます。

仮想デスクトップで Webex アプリの自動アップグレードを有効にすることをお勧めします。このオプションにより、ユーザは最新の機能を自動的に取得できます。別のオプションは、新しいリリースが利用可能になったときに手動でアップグレードすることです。

仮想デスクトップで Webex アプリの自動アップグレードを有効にするには、2つのオプションがあります。

- コマンドラインからの初期インストール中に有効にします (この本の展開の章の「Webex アプリ向けのホストされた仮想デスクトップの設定」を参照)。
- 仮想デスクトップで Windows レジストリキーを編集します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Spark Native のレジストリエントリで、AutoUpgradeEnabled=1 を設定します。

Webex アプリを手動でアップグレードする場合は、AutoUpgradeEnabled=0 を設定します。



- (注)
- Webex アプリの VDI ユーザは、毎月のシンククライアントリリースがホストされた仮想デスクトップにプッシュされないため、毎月の更新を受け取りません。
VDI ユーザは、Webex アプリの仮想デスクトップバージョンが利用可能になると、アップグレードするように求められます (2 か月に 1 回リリースされます)。
 - アップグレードパッケージは %appdata%\Local\CiscoSparkLauncher に保存されています。このフォルダがユーザの環境で永続的でない場合、Webex アプリは仮想デスクトップの再起動後に以前のバージョンにロールバックします。
 - HVD の Webex アプリは、ユーザのシンククライアントの Webex アプリ VDI プラグイン (N-3) と下位互換性があります。お客様またはお客様のユーザーが最新の HVD バージョンと VDI プラグインを使用していない場合、最新の特徴や機能が動作しない可能性があります。ことに注意してください。詳細については、[リリースノート](#)の「バージョンサポート」を参照してください。

シンククライアントのアップグレード

Webex アプリ VDI プラグインは 2 か月に 1 回リリースされます。

プラグインの自動アップグレードを有効にすることをお勧めします。VDI プラグインの自動アップグレードを有効にするには、仮想デスクトップで Windows レジストリキーを編集する必要があります。

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Spark Native のレジストリエントリで、AutoUpgradeVDIPluginEnabled=1 を設定します。
- 同じパスで、AutoUpgradeEnabled=1 であることを確認します。

プラグインの自動アップグレードを防止する場合は、仮想デスクトップで AutoUpgradeVDIPluginEnabled=0 を設定します。このオプションを選択した場合、アプリとのバージョンの互換性を維持するために、プラグインを手動でアップグレードする必要があります。



- (注)
- プラグインの自動アップグレードは、Webex アプリ 42.2 以降でのみ使用できます。
 - プラグインの自動アップグレードは、Windows および MacOS シンククライアントでサポートされています。プラグインは、Linux シンククライアントでは自動的にアップグレードされません。
 - プラグインは、仮想デスクトップ上の Webex アプリ も自動的にアップグレードする場合にのみ、自動的にアップグレードできます。
 - Webex アプリ が仮想デスクトップでアップグレードされた後、ユーザはプラグインをアップグレードするように求められます。
 - プラグインと仮想デスクトップ Webex アプリを最新バージョンに保つことをお勧めします。一緒にアップグレードできない場合は、何らかの下位互換性があります。詳細については、[リリースノート](#)の「バージョンサポート」を参照してください。

Citrix または VMware のアップグレード

Citrix または VMware 接続ブローカーへのアップグレードや変更を管理する場合は、この情報に留意してください。「環境の準備」の章に記載されているサポート対象のバージョンを必ず使用してください。

Citrix

インストールまたはアップグレード	Windows および Mac シンククライアント	Linux シンククライアント
新しいインストール	Windows または Mac シンククライアントに Webex アプリ VDI プラグインをインストールする前に、Citrix Receiver または Workspace をインストールします。VDI プラグインのインストール手順で、最初に接続ブローカーをインストールする必要がある旨の警告がお客様およびそのユーザーに表示されます。	Linux シンククライアントに Webex アプリ VDI プラグインをインストールする前に、Citrix Receiver または Workspace をインストールします。VDI プラグインのインストール手順で、最初に接続ブローカーをインストールする必要がある旨の警告がお客様およびそのユーザーに表示されます。
アップグレード	Citrix 環境にアップグレード通知が表示された場合、このアップグレードを実行しても、Windows または Mac シンククライアント上の Webex アプリ VDI プラグインに影響はありません。	Citrix 環境にアップグレード通知が表示される場合は、Citrix 環境のアップグレード後に Linux シンククライアント上で Webex アプリ VDI プラグインを再インストールする必要があります。

インストールまたはアップグレード	Windows および Mac シンクライアント	Linux シンクライアント
再インストール	<ul style="list-style-type: none"> • 1912 LTSR または 2002 より前の Citrix Workspace については、Webex アプリ VDI プラグインを再インストールまたは修正する必要があります。 • 1912 LTSR または 2002 以降の再インストールについては、VDI プラグインは機能し、影響を受けません。 	サポートされている任意の Citrix Workspace バージョンの再インストールについては、Linux シンクライアント上の Webex アプリ VDI プラグインを再インストールする必要があります。

VMware

インストールまたはアップグレード	Windows シンクライアント	Linux および Mac シンクライアント
新しいインストール	Windows シンクライアントに Webex アプリ VDI プラグインをインストールする前に、VMware Horizon クライアントをインストールします。VDI プラグインのインストール手順で、最初にコネクタブローカーをインストールする必要がある旨の警告がお客様およびそのユーザーに表示されます。	Linux または Mac シンクライアントに Webex アプリ VDI プラグインをインストールする前に、VMware Horizon クライアントをインストールします。VDI プラグインのインストール手順で、最初にコネクタブローカーをインストールする必要がある旨の警告がお客様およびそのユーザーに表示されます。
アップグレード	VMware 環境にアップグレード通知が表示された場合、このアップグレードを実行しても、Windows シンクライアント上の Webex アプリ VDI プラグインに影響はありません。	VMware 環境にアップグレード通知が表示される場合は、Citrix 環境のアップグレード後に Linux または Mac シンクライアント上で Webex アプリ VDI プラグインを再インストールする必要があります。
再インストール	VMware の再インストールについては、Windows VDI プラグインは機能し、影響を受けません。	VMware の再インストールについては、Linux または Mac シンクライアント上で Webex アプリ プラグインを再インストールする必要があります。

インストール後の VDI 検出の無効化

VDI クライアントの使用を希望しないユーザーがいて、Webex アプリ がすでに展開されている場合は、インストール後に VDI 検出を無効にすることができます。この設定後、Webex アプリ は最適化されていないソリューションで実行されます。

ステップ 1 HVD での Webex アプリ の展開方法に応じて、次のインストールパスのいずれかを開きます。

- c:\Program Files\Cisco Spark (Webex アプリ が ALLUSER パラメータを使用してインストールされている場合)
- %localappdata%\Programs\Cisco Spark (Webex アプリ がユーザーごとにインストールされている場合)

ステップ 2 ファイルをバックアップとして保持するために、TSDetectionLib.dll という名前を TSDetectionLib_b.dll に変更します。

次のタスク

後で Webex アプリ をアンインストールすると、TSDetectionLib_b.dll はフォルダに残ります。Webex アプリ をアンインストールする前にファイルの名前を TSDetectionLib.dll に戻すか、Webex アプリ をアンインストールした後に TSDetectionLib_b.dll を手動で削除する必要があります。

Webex アプリ VDI フォールバックモードでの高度なビデオ機能の有効化または無効化

レジストリを変更することで、高解像度 (HD) や画面共有などの特定の Webex アプリ 機能を有効または無効にできます。これにより、データセンターのサーバー上のリソースを節約できます。また、ユーザーが実行できるのがフルウィンドウの画面共有か、または HVD ウィンドウのみの画面共有かを決定することもできます。より高度なビデオ機能を備えたシステムをユーザーが使用している場合は、必要に応じて機能を有効にすることができます。

始める前に

- VDI プラグインのインストール前またはインストール後に、レジストリキーを変更できません。



注意 Windows レジストリの変更は、細心の注意を払って実行する必要があります。これらの手順を使用する前に、レジストリのバックアップを作成しておくことを推奨します。

- 仮想バックグラウンドは、デフォルトでは無効になっています。
 - 有効にするには、「[Webex ユーザー用の仮想バックグラウンドの設定](#)」の手順に従います。
 - ユーザのシンククライアントデバイスが[仮想背景のシステム要件](#)を満たしていることを確認してください。

ステップ 1 Windows の検索または Run ウィンドウで、**regedit** と入力し、**Enter** を押します。

ステップ 2 **HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Cisco Spark Native** に移動します。

ステップ 3 必要に応じて、次のレジストリキーの値を変更します。

ステップ 4 **VDIFallBackConf** の DWORD 値を選択します。

- 0—高度なビデオ機能は無効です。（デフォルト）
- 1—高度なビデオ機能は有効です。ユーザーはフルモードになります。これは、Windows の Webex アプリと同じです（音声、ビデオ、画面共有、および高度なビデオ機能）。
- 2—ビデオと画面共有は無効です。ユーザーは音声のみのコールを実行できます。
- 3—ビデオが無効です。ユーザーは、共有機能を使用して音声通話を実行できます。
- 4—画面またはアプリケーション共有のみ有効です。ユーザーは音声またはビデオのコールを行うことができず、メッセージングのみのモードになっています。

(注) このレジストリキーは、インストール中に `enablevdi=1` であり、かつ、VDI プラグインがインストールされていない場合にのみ機能します。フォールバックモードでは、データセンターの負荷が増加することから、過負荷状態を防ぐためにメディアは使用されません。

ステップ 5 **VDIBackgroundEnabled** の DWORD 値を選択します。

- 0—Webex アプリが最適化された VDI モードである場合、仮想バックグラウンドを無効にします。（デフォルト）
- 1—Webex アプリが最適化された VDI モードである場合、仮想バックグラウンドを有効にします。

ステップ 6 **VDIScreenShareEnabled** の DWORD 値を選択します。

- 0—Webex アプリが最適化された VDI モードである場合、全画面共有を無効にします。

Windows シンククライアントでは、ユーザは公開または共有デスクトップでのみ HVD ウィンドウビューを共有できます。

Webex リリース 42.8 以降、Linux シンククライアントは、「Webex での通話」通話中、または「メッセージングのみの共有」を使用している場合にのみ HVD ウィンドウを共有できます。

- 1—Webex アプリが最適化された VDI モードである場合、全画面共有を有効にします。（デフォルト）

VDI プラグイン通知の設定

デフォルトでは、ユーザーは、自らの Citrix または VMware クライアントが VDI プラグインなしで HVD に接続している場合に通知されます。最適化された VDI モードを有効にするために VDI プラグインをインストールすることを知らせる通知が表示されます。ユーザーは、必要に応じてそのリマインダを一時閉じることができます。

また、Webex アプリ VDI プラグインのバージョンが、HVD 上の Webex アプリ と互換性がない場合は、Webex アプリ VDI プラグインをアップグレードするようユーザに通知するポップアップが表示されます。リマインダは、ユーザーがアクションを実行するまで毎週表示されます。また、ユーザーはこの通知を閉じることができます。

管理者は、組織全体のレベルでこれらの通知を有効または無効にできます。

始める前に

VDI プラグインのインストール前またはインストール後に、レジストリキーを変更できます。



注意 Windows レジストリの変更は、細心の注意を払って実行する必要があります。これらの手順を使用する前に、レジストリのバックアップを作成しておくことを推奨します。

ステップ 1 Windows の検索または Run ウィンドウで、**regedit** と入力し、**Enter** を押します。

ステップ 2 **HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Cisco Spark Native** に移動します。

ステップ 3 **VDIPluginNotificationEnabled** のダブルワード (32 ビット) 登録キー値を選択します。

- **1**—ユーザ向けの VDI プラグイン通知を有効にします。(デフォルト)
- **0**—ユーザ向けの VDI プラグイン通知を無効にします。

すべてのデバイスで着信音とアラートの設定が機能しない

問題 Linux VDI クライアントでは、HVD ホストの Webex アプリでそのオプションが選択されている場合でも、着信コールの着信音はすべてのデバイス (シンクライアントのスピーカーを含む) を鳴らしません。HVD で選択されたオーディオデバイスのみが着信音を再生します。

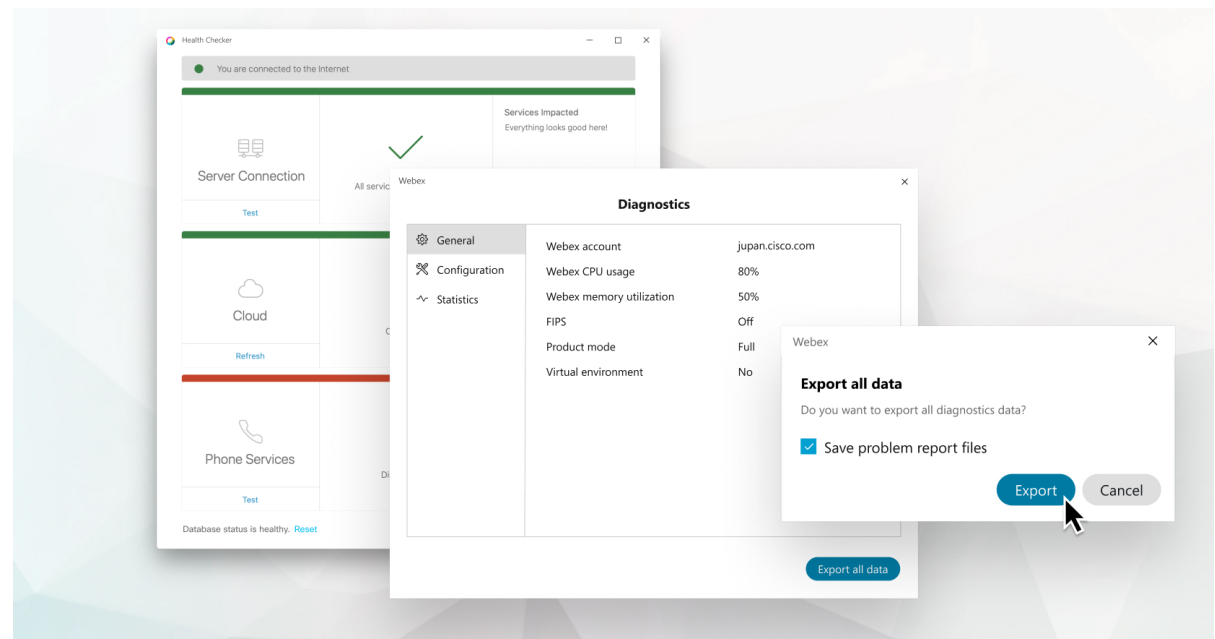
考えられる原因 この問題は、Citrix または VMware でのオーディオデバイス マッピングが原因で発生する可能性があります。

解決法 HVD 環境でレジストリキー `VDIDisablePlaytoneOnLinuxTCEnabled` を確認します。Linux シンククライアントユーザがこの呼び出し音の問題を観察している場合は、このキーの値を 1 に設定します。

Webex アプリでの診断

Webex アプリ（デスクトップおよびVDI）で利用可能な診断は、接続の問題を解決し、メディアの品質を確認し、重要なトラブルシューティング情報を収集するのに役立ちます。

図 1: Webex アプリでの診断



Webex アプリでのコール（Unified CM）のセットアップ中に、音声ドメインや UC サービスなどの接続に関連する問題や必要な設定が発生する場合があります。このツールを使用すると、どのサービスが正しく設定されているのか、何が足りないのかを診断できます。この機能は、Webex アプリでのコール（Unified CM）への移行の場合でも、新規ユーザを設定する場合でも、シナリオのトラブルシューティングおよびサポートケースの削減に役立ちます。

ユーザエクスペリエンスに問題がある場合は、[診断ビューとデータのエクスポートにアクセス](#)し、自分やサポートと共有できます。

- **Unified CM 設定**：以下など、電話サービスが正しく機能するための重要な設定（Jabber 移行や新規ユーザ設定など）
 - Unified CM のバージョン
 - UC サービスドメイン
 - SSO
 - ボイスメールなどの UC サービス

- MRA の Expressway

- **メディア品質**：ビデオ、オーディオの品質および両方向での共有
- **デバイス**：ユーザがデバイスに接続した際のデバイス情報

診断ウィンドウを表示するショートカットキーについては、「[キーボードとナビゲーションショートカット](#)」を参照してください。

ブラウザコンテンツリダイレクション

ブラウザコンテンツリダイレクト (BCR) は、仮想デスクトップマシンの負荷を軽減する VDI 環境の最適化です。

仮想デスクトップで BCR が有効になっている場合、Webex アプリは、リモート画面共有、アプリケーション共有、または画面部分共有によるブラウザコンテンツを共有できません。

Webex ユーザーは、ローカル画面共有を使用してブラウザを共有できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。